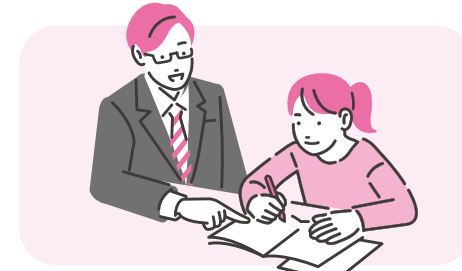


人材育成指標 改定のポイント

教職の素養

●教職の素養については、教職員生活を通じて常に磨き続ける資質・能力であるという捉えから、キャリアステージを貫く姿として設定しました。



●これまで学校栄養職員と栄養教諭・主幹教諭(栄養)は同じ人材育成指標となっていたが、求められる職務内容が明確に異なる部分を強調するため、別の人材育成指標として表記しました。

●人権感覚及び多様性の尊重については、本市がこれまで大切にしてきた人権尊重の精神を基盤とする教育活動の推進を踏まえるとともに、児童生徒等にとって自分自身が最大の教育環境であるという自覚を常にもち続けることが求められているため、今回の改定では強調して表記しました。

専門性

●日々の教育活動の中で、子ども一人ひとりの豊かな成長を支えていくために、特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもを深く理解することは欠かせません。また、専門領域における職務内容として給食管理は、子どもたちの健康・安全に関わる給食管理と食に関する指導として示しています。さらに、食に関する指導は、教職員等と連携し、目の前にいる子どもたちと共に創り上げる営みであることから、指導力向上を図る上で、子どもを深く理解することは大切です。横浜市は、これまでも「子ども理解」を教職員の専門性を支える土台と据えてきましたが、よりよい指導や支援においては、一人ひとりの子どもの実態に応じる必要があることから、「特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもの理解」と表記しました。



●教職員の「経験」や専門職としての「勤」、子どもたちとの日々の関わりに加え、様々な場面で「ICTや情報・教育データの利活用」を進めることは、一人ひとりの子どもをより多面的に、深く理解することにもつながります。専門性やマネジメント力の向上を図る上で大切な視点として「ICTや情報・教育データの利活用」を位置付けました。

●「児童生徒理解に基づいた指導・支援」は「生徒指導提要」に基づき整理しました。「発達支持的生徒指導」や「課題予防的生徒指導」の充実が生徒指導上の諸課題の未然防止や再発防止につながることを捉え、先手型の常態的・先行的生徒指導を実践していくことの大切さを示しました。

マネジメント



●「学校づくり」の視点に「給食経営マネジメント」が加わりました。この力は指導力とも密接に関わるため、学校教育目標の実現に向けて、食に関する指導の全体計画の実施・評価・改善の一連の流れを、日々の食に関する指導と紐付けていくことが大切になります。

●「教育課題に関する対応」については、時代や社会の潮流を読み解き、教育の方向性を的確に捉え、横浜市の教職員としてより一層理解を深め、教育活動に生かしていこうとすることが大切になります。

自分らしく「なりたいわたし」になる

急激に変化する時代において、子どもたちの成長を担うわたしたち教職員にとって、「学び続ける姿勢」がより一層重視されています。今回、人材育成指標の改定では、横浜市の教職員として身に付けるべき資質・能力をキャリアステージごとに示しました。子どもたちのために自らの力を高めることは、教職員としての自身のキャリアを積み重ねることにつながります。人材育成指標を活用し、教職員としてのキャリアデザインをより具体的に描きましょう。そして、その実現に向けてセルフ・マネジメントを通して主体的に学び続け、資質・能力の向上を図りましょう。

主体的なキャリアデザイン

児童生徒同様、わたしたち教職員も多様な存在です。一人ひとりが自らの専門性を高め、強みを存分に発揮していくことが求められます。

そのためには、これまでの児童生徒や保護者との関わりや様々な経験を通して、どう成長したのかを見つめ、これからの目指す姿、そのためにすべきことは何かを考えた上で歩んでいくことが大切です。

自分を作るのは自分です。「教職員としてどう在りたいのか。」日々の教育活動の中で、節目節目で立ち止まり、自分自身へとベクトルを向けて考えてみましょう。



学び合う教職員集団

「教職員の学びは児童生徒の学びと相似形」と言われています。校外研修や自己研鑽による個人の学びに加え、現場の経験も含む同僚との対話や振り返りの機会など、協働的な学び合いが資質・能力の向上には欠かせません。

キャリアステージの変化とともに、自己の成長に加えて仲間の成長を支援する役割も増えていきます。校内の人材育成に取り組む中で、更に身に付けるべき資質・能力が明確になり、自分自身も更に成長することでしょう。

児童生徒のロールモデルとして、学び合う教職員集団の構築を目指しましょう。



＊ 学校栄養職員 キャリアステージ一覧 ＊

	えがく 着任時の姿	つくる 第1ステージ	たかめる 第2ステージ	みがく 第3ステージ
	自己の成長・自己開発の視点		チーム学校の一員としての視点	
各ステージの説明	学び続ける姿勢をもち、教職に対する志を高めるステージ	学校栄養職員として、資質・能力の基盤をつくるステージ	周囲によりよく働きかけ、リーダーシップを発揮して、チーム力を高めるステージ	高い専門性やマネジメント力を発揮し、学校全体のチーム力を高めるステージ
それぞれのステージで求められる姿	<ul style="list-style-type: none"> 「自ら学び 社会とつながり」とともに未来を創る人をはぐくむために、学び続け、子どもに寄り添い、支えようとする姿 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の強みや弱みを捉え、学校栄養を創る人としての資質・能力を高めている姿 チーム学校の一員としての役割を認識し、取り組む姿 	<ul style="list-style-type: none"> 児童等への関わりや給食管理、食に関する指導、健康に関する個別対応を通じて、必要な資質・能力を磨こうとしている姿 身に付けた資質・能力を生かし、チームの中でリーダーシップを発揮している姿 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の資質・能力を磨き続け、校務分掌等において、専門的な視点からチーム力の向上及び人材育成に取り組んでいる姿

改定します!

学校栄養職員版

横浜市 人材育成指標【学校栄養職員版】

【学校栄養職員版】はここが変わります!

経験や役割によるキャリアステージを意識して、目標設定や現状把握を行います。



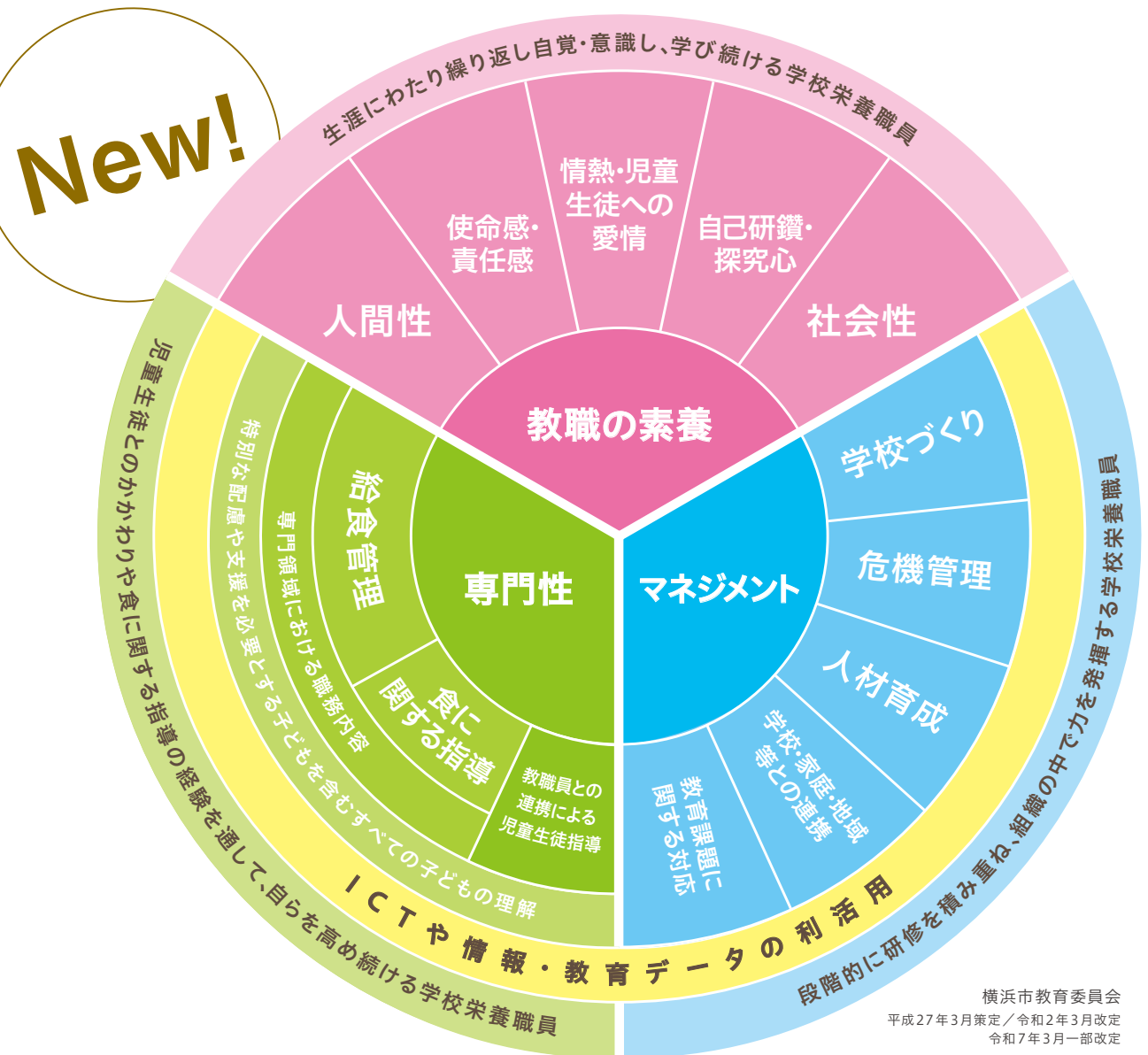
これまでも重視してきた「子ども理解」がより重視されます。



専門性やマネジメントを高める上で「ICTや情報・教育データの利活用」を進めることが求められます。



New!

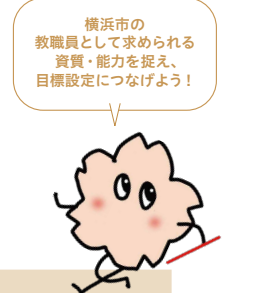


わたしを育てる わたしが育てる

作成・編集：横浜市教育委員会事務局 教職員育成課 健康教育・食育課 横浜国立大学教職大学院 令和7年3月発行

横浜市 人材育成指標【学校栄養職員版】

この表は、横浜市の学校栄養職員が身に付けるべき3つの資質・能力と、それらを構成する要素及び要素を捉える視点を示しています。今回の改定では、本市がこれまでも指標に位置付けていた「子ども理解」をより重視し、日々の教育活動の中で、子どもたち一人ひとりの豊かな成長を支えていくために「特別な配慮や支援を必要とする子どもを含むすべての子どもの理解」と表記しました。また、これからの学校教育においては、「ICTや情報・教育データの利活用」の視点を踏まえることが大切であることから、「専門性」「マネジメント」をより効果的に行うための視点として位置付けています。



目指す姿	資質・能力	要素	視点		
生涯にわたり学び続け、自ら意識し、学び続ける学校栄養職員	教職の素養	人間性	●教育に関する理念 ●倫理観 ●共感する力・受け止める力 ●人権感覚 ●多様性の尊重		
		使命感・責任感	●教育公務員としての使命感 ●教育公務員としての責任感		
		情熱・児童生徒への愛情	●教育的愛情 ●誇りと情熱		
		自己研鑽・探究心	●向上心 ●創造力 ●課題発見・解決能力 ●自己省察		
		社会性	●コミュニケーション能力 ●人間関係構築力 ●市民意識 ●信頼		
児童生徒とのかわりや食に関する指導の経験を通して、自ら高め続ける学校栄養職員	専門性	給食管理	衛生管理	●学校給食衛生管理基準、横浜市学校給食衛生管理総合マニュアルに基づく衛生管理 ●HACCPの考えに基づく危害分析と衛生管理	
			栄養管理	●学校給食摂取基準や食品構成に配慮した献立作成・食事内容の充実 ●残食調査等を踏まえた栄養管理	
		食に関する指導	給食時間における指導	●給食の時間における日常的な給食指導 ●給食を教材とした食に関する指導	
			教科等における指導	●食に関する指導の全体計画の理解 ●教職員等と連携した教科等における食に関する指導	
		ICTや情報・教育データの利活用	食物アレルギー等の個別対応	●食物アレルギー、偏食、肥満・痩身等に関する個別対応 ●校内組織、関係機関等との連携	
			専門領域におけるICTの活用	●給食運営や食育等におけるICT活用	
		組織の中で力を発揮する学校栄養職員	マネジメント	児童生徒理解に基づいた支援	●発達支持的生徒指導 ●課題予防的生徒指導 ●困難課題対応の生徒指導
				教育的ニーズに対応した指導・支援	●多様な教育的ニーズ(不登校、外国につながる児童、苦しさを抱えている児童)に対応した教育の推進 ●特別支援教育の推進
				学校づくり	●学校経営への参画 ●組織の活性化への寄与 ●給食経営マネジメント
		危機管理	●安全配慮義務 ●学校給食における危機管理 ●コンプライアンス ●労務管理 ●メンタルヘルス		
人材育成	●セルフ・マネジメント ●教職員同士の学び合い				
学校・家庭・地域等との連携	●保護者との連携 ●家庭・地域社会と連携した食育の推進				
教育課題に関する対応	●今日的な教育課題の理解				

キャリアステージ	
○キャリアステージは採用時からの経験年数で一律に捉えるのではなく、採用前の経歴や個人の資質・能力、チーム学校の一員として求められる役割等が考慮されています。	
○目安として、第1ステージは「着任から横浜型初任者育成研修の受講修了まで」、第2ステージは「神奈川県学校栄養職員10年経験者研修を受講する前まで」、第3ステージは「神奈川県学校栄養職員10年経験者研修の受講修了以降」とします。	

えがく

学び続ける姿勢をもち、教職に対する志を高める

着任時の姿

- 「自ら学び 社会とつながりとともに未来を創る人」をはぐくむために、学び続け、子どもに寄り添い、支えようとする姿

つくる

学校栄養職員として、資質・能力の基盤をつくる

校内外の関係者と進んで関わる

第1ステージ

- 自己の強みや弱みを捉え、学校栄養職員としての資質・能力を高めている姿
- チーム学校の一員としての役割を認識し、取り組む姿

たかめる

問題によりよく働きかけ、リーダーシップを発揮して、チーム力を高める

校内外の関係者と連携・協働

第2ステージ

- 児童等への関わりや給食管理、食に関する指導、健康に関する個別対応を通じて、必要な資質・能力を磨こうとしている姿
- 身に付けた資質・能力を生かし、チームの中でリーダーシップを発揮している姿

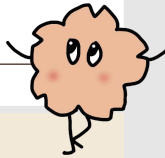
みがく

高い専門性やマネジメント力を発揮し、学校全体のチーム力を高める

学校全体に関わる

第3ステージ

- 自己の資質・能力を磨き続け、校務分掌等において、専門的な視点からチーム力の向上及び人材育成に取り組んでいる姿



資質・能力を身に付けている各キャリアステージの姿 各ステージの終了までに身に付けてほしい資質・能力を要素と視点ごとに示しています。一つ前のステージで身に付けた資質・能力については、次のステージに繰り返し記載していない場合がありますが、資質・能力は次のステージでさらに高め、磨いていくものであると捉えます。

資質・能力	要素	視点	資質・能力を身に付けている各キャリアステージの姿
教職の素養	人間性	●教育に関する理念 ●倫理観 ●共感する力・受け止める力 ●人権感覚 ●多様性の尊重	●児童等のよりよい成長を目指し、横浜市の教職員として高い倫理観や教育理念をもって、教育活動に当たっている。／児童等や教職員、保護者、地域等の思いに共感し、多様な価値観を認め、真摯に受け止めている。／「だれもが」「安心して」「豊かに」学校生活を送るための基盤となる、人権に対する確かな知識と豊かな人権感覚を身に付けている。
	使命感・責任感	●教育公務員としての使命感 ●教育公務員としての責任感	●教育公務員としての自覚をもち、法令等を遵守し誠実かつ公正に職務を遂行している。／「横浜公立学校教職員行動基準」の内容を理解し、遵守している。／教職員の仕事の重要性を自覚し、教育者として誰からも信頼されるよう、行動している。
	情熱・児童生徒への愛情	●教育的愛情 ●誇りと情熱	●教育基本法で定める「教育の目的」及び「教育の目標」を踏まえ、児童等に教育的愛情をもって接している。／横浜市の教職員として、誇りと情熱をもって、教育活動に当たっている。／組織における自らの役割と責任を自覚し、職務を遂行している。
	自己研鑽・探究心	●向上心 ●創造力 ●課題発見・解決能力 ●自己省察	●自己研鑽に努め、向上心をもって学び続けている。／児童等、教職員との関わりの中で、個や学級及び学校の課題を捉え、それらの解決に向けて取り組んでいる。／上司や同僚からの指導・助言を真摯かつ謙虚に受けとめるとともに、自己分析を図り、日々の職務に生かしている。
	社会性	●コミュニケーション能力 ●人間関係構築力 ●市民意識 ●信頼	●周囲の状況や相手の思い、考えを汲み取り、自分の考えを適切に伝えている。／児童等や教職員、保護者、地域等と積極的に関わり、人間関係を築いている。／自らが、児童等の人格形成に関わる地域の一員であることを自覚し、教育活動に当たっている。
専門性	衛生管理	●学校給食衛生管理基準・横浜市学校給食衛生管理総合マニュアルに基づく衛生管理 ●HACCPの考えに基づく危害分析と衛生管理	●学校給食の衛生管理基準、横浜市衛生管理総合マニュアル、HACCPに基づいた給食の衛生管理に取り組んでいる。 ●学校給食の衛生管理基準や横浜市衛生管理総合マニュアル等、衛生管理に関する基礎的・基本的な内容を理解し、日常点検に関する指導・助言を行っている。 ●適切な衛生管理に向けて、校内で共通理解を図りながら体制づくりに努めている。
	栄養管理	●学校給食摂取基準や食品構成に配慮した献立作成・食事内容の充実 ●残食調査等を踏まえた栄養管理	●学校給食摂取基準や食品構成に配慮し、横浜市の献立方針や各学校の実態に合わせた栄養管理に取り組んでいる。 ●学校給食摂取基準等、献立作成に関する基礎的・基本的な内容を理解している。 ●学校の実態を把握し、調理従事者と連携し献立や栄養指導に努めている。
	給食時間における指導	●給食時間における日常的な給食指導 ●給食を教材とした食に関する指導	●給食指導計画に沿った指導や献立を教材とした食に関する指導に取り組んでいる。 ●給食を通して伝統的な食文化、栄養的な特徴等について計画的に指導を行っている。
	教科等における指導	●食に関する指導の全体計画の理解 ●教職員等と連携した教科等における食に関する指導	●食に関する指導の全体計画を知り、教職員等と連携して、教科等における指導に取り組もうとしている。 ●教科等における食に関する指導の内容を理解し、献立の教材化や授業に必要な資料等の提供に努めている。
	食物アレルギー等の個別対応	●食物アレルギー、偏食、肥満・瘦身等に関する個別対応 ●校内組織、関係機関等の連携	●児童等の実態を踏まえ、教職員等と連携し、個別対応を行っている。 ●食物アレルギー対応において、専門性を生かし、対応しようとしている。
	専門領域におけるICTの活用	●給食運営や食等におけるICT活用	●給食運営や食に関する指導に必要なICTの操作方法や情報モラルを理解している。
	児童生徒理解に基づいた指導・支援	●発達支持的生徒指導 ●課題予防的生徒指導 ●困難課題対応的生徒指導	●全ての児童等に対し、一人ひとりの発達の過程をいかに支えるかという視点に立ち、日々の教育活動を行っている。 ●児童等の実態把握に向けて、日々の観察や調査データ等を活用して情報収集し、課題を早期に発見するとともに、未然防止教育及び対応に取り組んでいる。 ●いじめ等の特別な指導・援助を必要とする特定の児童等に対し、一人でも抱え込まず早期発見と即時対応に向けた報告・連絡・相談の重要性を理解し、協働に対応している。
	教育的ニーズに対応した指導・支援	●多様な教育的ニーズ(不登校、外国につながる児童、若しさを抱えている児童等)に対応した教育の推進 ●特別支援教育の推進	●児童等の実態や保護者の願い、教育的ニーズを捉え、他の教職員等と協働し、適切な指導・支援を日常的に行っている。 ●あらゆる教育の場で、一貫した適切な支援や合理的配慮を提供するため、特別支援教育に係る知識・理解の向上を図っている。
	学校づくり	●学校経営への参画 ●組織の活性化への寄与 ●給食経営マネジメント	●学校教育目標の実現に向けて、組織の一員としての役割を認識し、日々の教育活動の中で責任を果たしている。 ●栄養管理、衛生管理とあわせ、施設設備・予算・調理従事者等の管理を的確に組織的にしている。 ●学校給食に関する危機管理について、全教職員で理解するために、校内組織や関係機関等と連携し研修を企画・実施している。
	危機管理	●安全配慮義務 ●学校給食における危機管理 ●コンプライアンス ●労務管理 ●メンタルヘルス	●防災及び防犯・安全、学校事故の未然防止や学校給食における危機管理(異物混入、食物アレルギー、食中毒、窒息防止)の視点から、教職員間の情報共有を図りながら、自身の意識を高めるとともに、組織内で役割を果たしている。 ●教職員としての高い倫理観と規範意識に基づいて、コンプライアンスについて理解し、不祥事根絶の意識をもっている。 ●心身の健康の保持・増進に向けて、ICT等を活用した自身の業務改善及びメンタルヘルスクエアを行っている。
人材育成	●セルフ・マネジメント ●指職員同士の学び合い	●自らのキャリアデザインを描き、自己分析に応じて研修や研究会等を活用するとともに、他者と協働して資質・能力の向上に努めている。	
学校・家庭・地域等との連携	●保護者との連携 ●家庭・地域社会と連携した食育の推進	●学校が家庭や保護者と連携・協働することの大切さを理解し、自己の役割を果たしている。 ●家庭・地域等に向けて、児童等の食や栄養に関する取組を発信している。	
教育課題に関する対応	●今日的な教育課題の理解	●教育の方向性について背景や根拠を確認するなどして理解し、主体的に課題等に対応している。	

マネジメント

ICTや情報・教育データの活用

特別な配慮や支援が必要な児童生徒の理解

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進

特別支援教育の推進